

### チャンドラゴーナ会

Bangladesh南東部のチャンドラゴーナでの地域医療活動を行う宮川眞一医師家族を支える会。福岡、愛媛、兵庫、北海道に事務局がある。会員数は全国に約300人。ホームページやブログ、メールを使って会報や現地報告会、募金活動をしている。チャンドラゴーナ会<http://chandranet.npg.o.jp/>

また、JOCSでは、海外医療協力に役立てるため使用済み切手を募集している。[http://www.jocs.or.jp/jocs/modules/tiny\\_d3/](http://www.jocs.or.jp/jocs/modules/tiny_d3/)

62歳。日本ではまだ現役か、第二の人生の年齢が、Bangladeshの平均寿命だ。自然環境が厳しく、社会情勢も不安定。医療体制もせいぜい弱で治療を受ける機会も少ない。愛媛県出身で春日市の病院に勤務していた医師、

ユの現状に衝撃を受けた。その支援に共感し、さまざまな海外協力を携わる中、牧師よりも医師になることを志した。合格したのは30代だった。そんな宮川さんを当時から応援しているのが「チャンドラゴーナ会」

# Bangladeshで医療活動

宮川眞一さん(49)は05年、JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)の派遣でBangladeshへ赴任し、翌年から南東部のチャンドラゴーナで地域医療活動をしている。

関西学院大学神学在学中、「アジア夏期学校」に参加し、Bangladesh

代表の角正信さん(61)は元大阪YMCA国際専門学校長。2人は大阪時代、国際ボランティア活動を通して出会った。50代後

半で故郷の福岡に戻った角さんは宮川さんと再会。アジアに対する「初志、貫徹」の姿勢を貫く宮川さんを支援しようと、05

年時の派遣と同じくして会を発足した。角さんもこれまで現地を訪ね、護衛付きで無医村の地域を宮川さんと回った。

## 「げんし」とります

福岡グループインフォ

「ただお金を渡す、たとえば学校を作るだけでなく、自立できるように技術を提供したり、現地の人たちの細部まで行き



チャンドラゴーナで(右から)宮川さんと妻子、角さん

届く支援がしたい」。そのためには、市民活動としての国際協力が必要だと話す。もっと現地を知ってほしいと、活動地域名を会名にした。宮川さんは会のホームページでリアルタイムで現地の様子を伝えるブログを書いている。角さんは顔の見える国際協力を目指し、「チャンドラゴーナ会を通して、地球規模での貧困などを考えるきっかけ

【中曾根香】  
**9日に報告会**  
宮川さんは現在、1期目の活動を終え、一時帰国中。9日午後7時、早良区西新6の西南学院大学コミュニケーションセンター会議室で報告会がある。無料。角さん090・5925・1940。  
(写真はチャンドラゴーナ会提供)



現地で医療活動をする宮川さん(右)